

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

東三河広域連合  
5.3.31  
第 介護課

法人名	社会福祉法人和敬会	代表者	太田 一平	法人・事業所の特徴	『おだやかな“生きる”を支えたい。』を理念として、生活の拠点となる在宅での生活を支えるべく本人様の生活環境やご家族、介護者の方の要望に応じたサービス提供に努めています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所なごみみの郷	管理者	伊藤 紘二		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	1人	1人	人	人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	本人様の「～したい」に応えられる方法や対応を皆で探していく。 ミーティングの時間を作りプログラムの内容を確認、把握する機会を作っていく	情報共有に努めて様子の変化などを確認している。本人様の「～したい」は受け取っても形にできていないこともあるためみんなで話し合いの機会を持ち検討をしていく。	・スタッフ皆さん、きちんと仕事に向き合っておられるのが伝わってきます。 ・事業所内での話し合い、家族からの意見をなごみの郷の方から積極的に聞き、施設内で職員で共用してほしい。 ・施設内には、気楽に入りやすいと、いつも思っています。	情報が円滑に行えるようノートに記載したり、朝礼などの場で口頭で確認するなど連携に努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染症等の知識を深めながら、日頃からの感染予防にも努め、利用者様にとって安心で快適な環境づくりに努める。	快適な環境の保持や感染症についての知識、対応、対策は努めている。今後の対応もよく検討していく。	・スタッフの方は、あいさつをはじめ、感じ良いです。 ・家族や地域との関わり方をもっと増やし、イベントを開くなどして事業所をもっと理解してもらえようように努力していく。	地域交流が行えるようになったら情報交換や共有が積極的に行えるよう努めていく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域交流が積極的に行えるようになった際に情報交換やつながり、関りが架けるように努めていく。	交流機会がなかなか作れない状況だがかかわりを持てるようになった時に積極的に活動が出来るように努めていく。	・またあじさいを切りに来てくださいます。 ・事業所内のことをもっと外に知らせる活動を年に1回か2回の会報でもよいのでやったらいいと思う。	地域の方との関係づくりに努め、本人様たちが安心して馴染みある生活を続けていけるような環境づくりに努めていく。
D. 地域に外向いて本人の暮らしを支える取り組み	地域の方との関係づくりに努め本人様の地域での暮らしを支えていけるような、つながりの構築に努める。	地域とのつながりが持ちにくい状況であるが、相談などの依頼などは応えていけるよう準備をしていく。	・コロナ対策のため、紙面での情報共有が約3年続いてきましたが、これからの対面での会議を楽しみにしています。 ・次回からは地域にも開かれた事業所を目指しがんばってほしい。	運営推進会議の中で事業所の取り組みや情報を地域の代表の方にも知っていただき地域の力になれるような事業所を目指していく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議において情報発信や地域の方の意見を聞く機会を持ち地域の力になれる事業所を目指していく。	運営推進会議の場で地域の方にも活動の様子が伝わるように情報を整理したり準備をする。	・リスクのある方だけでも、災害時直接なごみの郷に行けると良いと思います。 ・災害時どのような対応ができるのか、柏原町民にも知らせしてほしい。	防災体制や対策を確認し、スタッフの意識付けも行う。有事の際は地域との協働に努め、地域にとつての防災力の一部になれるように努める。
F. 事業所の防災・災害対策	防災体制や対策を確認し、有事の際にも地域と協力が出来るような役割も把握する。	防災体制や災害時の対応、地域との連携を確認把握する。		